

# 笠江が5位入賞

## 表彰台まであとわずか

2004 FJマスターズ



FJマスターズレースでデッドヒートを繰り広げる笠江友和(前)と柳木康、ツインリンクもてぎ(前)

カーレースの2004 FJマスターズレースはこのほど、栃木県のツインリンクもてぎで行われ、延岡市出身の笠江友和(ZAP-SPEED, e-tec)が福岡西宮率で5位入賞した。

同レースはFJ1000の、あつぎ、東北、鈴鹿、筑波、オートボリス、T-1の各シリーズからトップ選手が出場。通称「FJ日本一決定戦」と呼ばれる。予選(タイムレース)、第1レク、第2レクの関門を勝ち抜いてファイナルに進出。敗者復活戦を含む4回ずつセッションを走りきらなければならぬ。

予選は8組で競技。笠江は前日からマシンとの相性が良し、十分にポールポジションを狙える」と通気で挑んだ。ところが、気合が入りすぎたのかスタート直後のS字コーナーで減速できずスピン。タイムが計測できないまま残り30分にならなコース復帰したが、何とか予選のタイムを出すことができた。

第1レク(3組)は5周の短距離戦。1つでも順位を上げたい笠江はスタートで2003東北シリーズ主

者の小林に抜かれるも、その後は奮闘に2台を抜き4番手でフィニッシュした。第2レク(2組)からは今年度の各シリーズチャンピオンも参戦。8番手スタートの笠江は出たして10位位置まで後退したが、燃えることなか、コーナーごとに1つずつ順位を上げ5番手(9番グリッド)でファイナルレースに駒を進めた。後方スタートながらファイナルは大会最長の10周とあり、チャンス十分「ハイレベルなレースができる」とどこどこに内心ワクワクしていた」と笠江は、ライバルの上級者を次々と抜き去り「気が付くと中盤には4番手まで上がっていた。

表彰台も狙えてきたが背後には同門・栗原がひたりとスリッパストリーパーに潜伏。2台はホイール・トゥ・ホイールの接近戦を何度も経じたが、笠江は最後の90度コーナーでかわき

れ、そのまま5位でチェッカーを受けた。

レースを終えた笠江は、最高のマシンを用意してくれたチームメンバーを思い「表彰台に立てなくて残念」と話しながらも「本場にハイレベルでエキサイティングなレースを楽しめた。当たり前だが一人でレースをしているわけではないと改めて実感した」と感想。

先日はチームの計らいで、世界的に展開しているフォーミュラル12000のマシンをテスト走行。より格上のルノー2000は来年から国内開催も決まっており、笠江は「選択肢の一つとして検討してい

る。今後必ずステップアップして自分の境界にチャレンジし続ける」と闘争心に燃えている。

【FJマスターズレース】  
 ▼予選(グループ) ①栗原康之(ZAP・ヒロス・銀河) 2分4秒883②笠江友和(ZAP-SPEED, e-tec) 2分5秒903  
 ▼第1レク(グループ) ①岡田隆(エクシード, M1) 10分40秒4②笠江友和 10分43秒2③栗原 10分43秒2④栗原  
 ▼第2レク(グループ) ①中野将誠(Woody Winds) 12分40秒384②笠江友和 12分47秒9③ツインリンクもてぎ 12分47秒9④ツインリンクもてぎ  
 ▼ファイナル ①松原亮二(Woody Winds) 21分7秒280②笠江友和 21分14秒9827

